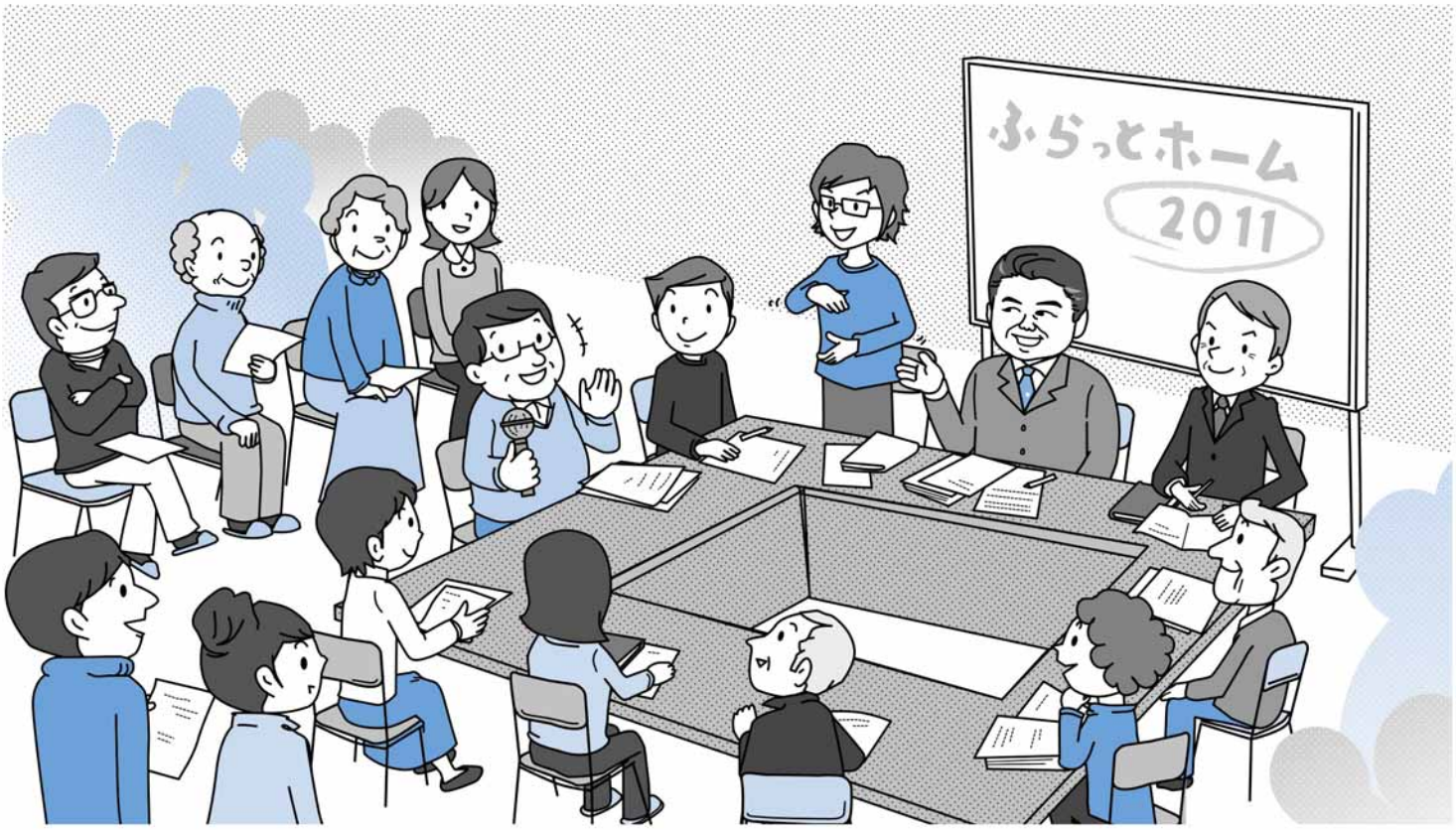
語ろう！札幌のまちづくり

～ふらっとホーム2011での対話を紹介～

札幌をより住みよいまちにするため、市民と市長がじっくりと話し合う「ふらっとホーム」を本年度も10区で開催しました。
今回はその会場の様子や、意見交換の内容の一部を紹介します。

この特集に関するお問い合わせは、市民の声を聞く課☎211-2045



ふらっとホームとは？

市長が各区に出向き、市民と意見交換をする場です。約2時間、「子育て」「安全・安心」「ごみ」「防災」など市政に関するテーマに沿って話し合います。毎回活発な議論が行われ、いくつかの意見は具体的な施策に結び付いています。

■実施状況　参加者は、無作為抽出した市民の中から希望を募り、決定しました。

区	実施日	会場	参加人数	区	実施日	会場	参加人数
中央	10月29日	中央保健センター	9人	豊平	11月19日	豊平区民センター	8人
北	11月９日	サンプラザ	5人	清田	９月24日	清田区役所	4人
東	10月15日	東区民センター	6人	南	12月15日	南区役所	6人
白石	10月１日	白石区民センター	9人	西	12月２日	西区民センター	7人
厚別	11月24日	青葉まちづくりセンター	6人	手稲	９月16日	手稲区役所	7人

過去のふらっとホームでの発言から、こんな施策が生まれています

○高齢者などが街の中で一休みできるように、椅子やテーブルを駅前通や地下歩行空間に設置
○日中働いている人でも気軽に運動ができるように、夜に歩く「ナイトウォーキング」を手稲区で実施
○待ち時間に読んでもらえるように、市内120カ所の病院・診療所で広報さっぽろの配架を開始　など

西区 子どもたちの見守りに高齢者の力を！

高田（たかだ）さん（37歳、女性） 私は子どもが生まれる前から仕事を続けています。子育てと仕事の両立は体力的にも精神的にも大変ですが、ご近所や学校の保護者同士のつながりもあってなんとかやってこれています。

駒木根（こまきね）さん（70歳、女性） 最近、働くお母さんが増えていますよね。小学生の孫の学習発表会に行くと、共働きの家庭のお母さんは来ていないことがあります。でも、私たちのような、おじいちゃん、おばあちゃんは時間があるので、子どもたちを見守ることができますね。

市長　共働きのご家庭を助けるために、市では児童会館など、子どもたちの放課後の居場所を整備しています。また、駒木根さんがおっしゃるように、高齢者を含め、地域全体で子どもたちを支えていくことが大切だと思います。

渡部（わたべ）さん（45歳、女性） そうですよね。でも最近は近所付き合いも希薄になっていて、近所の子どもを叱りづらくなりました。「うちの子は放っておいて」というような考えの人が多くてちょっと寂しいですね。

小嶋（こじま）さん（70歳、男性） 学童保育を地域の高齢者が引き受ける、というのはどうでしょう。子どもたちの話し相手になったり、歴史を教えてあげたりするだけでもいい。また、私の住む共同住宅にはスキーがとても上手な高齢者がいます。そういう技術や知識のある人がもっと地域で活躍できれば、子どもを見守ると同時に成長させることにもつながります。

能味（のおみ）さん（35歳、男性） これまでのお話を聞いて、私たちの世代も何かしなければいけないと思えてきました。私たちも経験豊富な高齢者の皆さんに学びながら、地域の中で動いていかなければならないですね。

市長　そうですね。高齢化は社会問題だといわれていますが、実は地域を支える層が増えるということなのです。高齢者が自分のお孫さんだけでなく、近所の子どもたちにも気軽に声を掛けるような、地域の関わりが深まる仕組みをつくっていきたいですね。

豊平区　自転車と歩行者。両者の安全を守るには？

井馬（いま）さん（39歳、女性） 歩道を走っている自転車にとても危険を感じています。自転車は車道を走るルールになっているはず。自転車専用の道路を造るなどして、安心して歩ける歩道にしてほしいです。

北田（きただ）さん（79歳、男性） 私が車の運転をしていたころは、車道を走る自転車が車側に倒れてくるのでは、と不安でした。歩行者、自転車、車それぞれが通る空間を分離することは緊急の課題ではないでしょうか。

区長　西区の一部の道路では、実際に自転車走行空間を設けて、その効果を検証しているところです。

菊池（きくち）さん（23歳、女性） 私は、子どもや免許のない人も、交通の基礎知識をもっと勉強する機会があるとよいと思います。教育の時間を設けることが必要ではないでしょうか。

市長　そうですね。道路などハード面の整備が可能な場所は、行政でできる限り整備し、不可能な場所では人々の意識を変えることが安全を守ることにつながります。車は自転車より強く、自転車は歩行者より強い。強者が弱者を守るという最低限のルールを、学校教育の中で徹底するよう、教育委員会に申し入れたいと思います。

東区　ごみステーションをきれいに保つには？

鈴木（すずき）さん（71歳、女性） 私の団地のごみステーションは掃除の手間がかからないボックス型で、管理が行き届いていますが、住宅街には組み立て式のタイプが多いように思います。組み立て式だとごみが崩れて散らばってしまい、すごく臭いです。上にかける網もべたべたしていますし。

市長　マンションなどの集合住宅では、家主さんにボックス型のごみステーションを設置することを求めていまして、それぞれの住宅ごとに作っていただいています。

佐藤（さとう）さん（40歳、女性） 私が使うごみステーションは、いつもきれいだと思っていたら、向かいに住む奥さんが掃除をしてくれていることが分かりました。当番制でないごみステーションでは、毎日掃除する人が決まってしまっているのです。これはちょっと不公平ですよね。

市長　そうですね。ごみステーションの設置場所は地域で決めていますが、収集ルートや地形などの関係で、置ける場所が限られることもあるかもしれません。地域をきれいに保つために誰がどう責任を持つのか。それを話し合える仲間をつくることが大事だと思います。

防災

北区　安達さん（40歳、女性）市は、冬場の災害への対策をとっていますか。

清田区　奥山さん（76歳、男性）町内会単位で組織している「自主防災組織」が災害時に機能するのか不安です。

白石区　仁和さん（49歳、男性）東日本大震災があり、近所の人との交流の大切さを痛感しました。もっと普段の生活の中でつながりを持てるようにするべきでは。

市長　災害時の食料や毛布などの備蓄については、東日本大震災を踏まえ、さらに増強を進めています。同時に、冬の災害に備えて、避難場所になる体育館などの断熱性を高めるための設計を始めました。阪神・淡路大震災のときには、実に被災者の8割の方が隣近所の人に助け出されたというデータがあります。地域で助けが必要な人を把握しておくことが大切ですね。

障がい者施策

厚別区　石黒さん（58歳、男性）知的障がいのある子が高等養護学校を卒業した後、働ける場所を増やせないでしょうか。

南区　関下さん（71歳、男性）歩道の真ん中に電柱があって車椅子が通れない場所があります。障がいのある人が歩きにくい道があることを、もっと分かってもらいたいです。

市長　市では、障がい者を積極的に雇用するよう企業に働き掛けるとともに、元気カフェなどの雇用の場を創出してきました。こうした施策を今後も進め、障がい者はしっかり働ける、という認識を多くの人に持っていただきたいです。歩道のバリアフリー化については、都心や駅の周辺などを中心に、順次進めています。街じゅう全てを整備するのは難しいので、優先度を考え、計画的に実施していくことになります。

みどり

中央区　渋谷さん（50歳、女性）地域や公園の中に、子どもたちと一緒に花を育てられる場所や、緑を楽しめる場所がもっとあると素晴らしいと思います。

手稲区　大井さん（55歳、女性）花を通じて、もっと楽しく、安らぎのあるまちづくりができないでしょうか。

市長　子どもたちが苗を育て、花が咲いたら地域の人と一緒に世話をする「マイタウン・マイフラワー活動」が、市立幼稚園・小学校の85％以上に広がっています。学校を中心に、子どもと地域の方々が一緒になって、花や緑を大事にするという気持ちを育てていく、こうした活動を今後も支援していきます。

皆さんの声で札幌をもっと暮らしやすいまちに

今回見てきたように、市民一人一人はさまざまな意見を持っていますが、「札幌をより暮らしやすいまちにしたい」という思いは共通しています。
ふらっとホームの他にも、市民の皆さんの声を聞かせていただく機会を設けていますので、ぜひご意見をお寄せください。市は、そうした皆さんの声を大切にし、札幌がよりよい街になるように努めていきます。

市政に関するご意見、ご提案をお待ちしています

市民の声を聞く課
☎211-2042　FAX218-5165

インターネット市政提案
www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/iken/shiseiteian.html